

バリアフリーを考えよう

<概要>

視覚障害者からみた場合、自分で作ったホームページにどのような問題点があるのか市販のソフトウェアを用いて調べ、情報発信をする場合にバリアフリーを考える必要があることを理解する。

<キーワード> バリアフリー、アクセシビリティ、iChecker

1. 学習活動

実習

ホームページ上から、アクセシビリティ診断ソフトをダウンロードする。

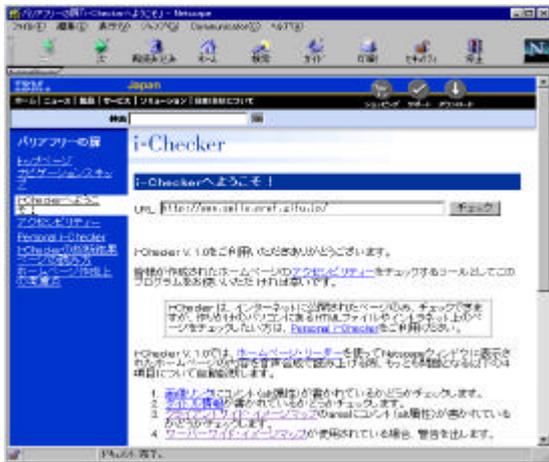


図1 iCheckerのホームページ

診断ソフトを動かし、自分で作成したホームページを診断し、視聴覚障害者からみた場合の次の問題点などについてまとめ、改良する。

- ・ 画像リンクにコメントをつける。
- ・ タイトル情報をつける。

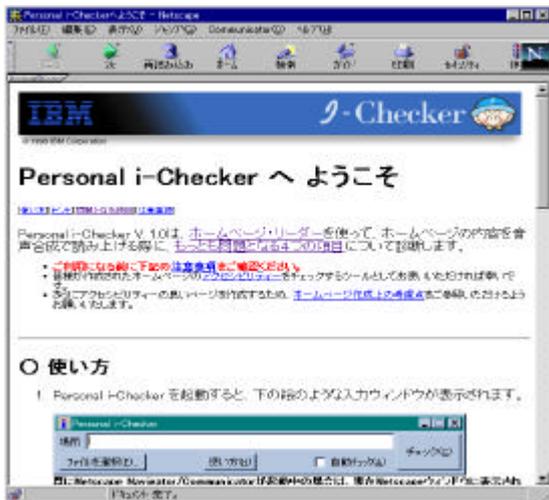


図2 診断ソフトの使い方



図3 診断ソフトによる SMILE ホームページの診断 問題の検出はなかった。

3 老人や障害のある人にとって、自立して生活するのに、情報化が急激に進むこれからの社会でどんなことを考える必要があるか調べてみよう。



図4 バリアフリーについて考える

2. 参考資料

iChecker

<http://www.ibm.co.jp/accessibility/index.html>

バリアフリー

<http://www.ingjapan.ne.jp/ehome/home214.htm>